

アーカイブ 通信 No.2

2014.10.25

No.2 秋号

- ◆編集・発行：
ネットワーク・市民アーカイブ
- ◆tel/fax: 042-540-1663 (事務局)
tel・fax: 042-536-5535 (市民アーカイブ多摩)
E-mail: simin-siry@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/simin-siry/
◆正会員 1 口 6000 円、賛助会員 1 口 3000 円
ゆうちょ銀行 振替口座 00120-9-729226
口座名: 市民アーカイブ

シンポジウム「市民発の情報が社会を変える」開催

リレートーク・フィールドワークも始めます

2015年新春から、当会はさまざまな催しを始めます。ぜひ、ご参加ください。

①シンポジウム

1つ目は、市民アーカイブ多摩・公開シンポジウム「市民発の情報が社会を変えるー市民活動のアーカイブの可能性ー」を、2015年1月11日(日)に行います。場所は、一橋大学職員集会所、ゲストコメンテーターに石居人也さん(一橋大学大学院社会学研究科教員)を迎え、市民発の情報の可能性を探ります。

②リレー・トーク

「市民アーカイブ多摩と私」

2つ目は、リレー・トーク「市民アーカイブ多摩と私」(仮題)です。市民アーカイブ多摩の各運営委員が毎回スピーカーとなり、市民アーカイブ多摩の閲覧室(玉川上水駅徒歩8分)を会場に、自身と市民アーカイブのつながり、活動への提言、さらに所蔵資料の紹介などを行います。隔月開催で、4~5回程度を予定しています。詳細が決まり次第、あらためてお知らせします。

③フィールドワーク

3つ目は、フィールドワークです。テーマは「市民活動資料の現場を訪ねる」(仮題)で、近現代史の現場や、さまざまな資料を所蔵している資料館、文

書館などを訪ねます。今のところ、砂川闘争や成田空港反対闘争の現場や資料館、ハンセン病資料館などが候補として挙がっています。ご希望やご提案があればお寄せください。

集会報告

ようこそ！

市民アーカイブ多摩へ

7月13日、近隣の方へのお披露目を兼ねての催し「ようこそ！市民アーカイブ多摩へ」を開催しました。当日は、当会に場所を提供してくださっているグリーンサンクチュアリ悠の代表、岸中友子さんと当会代表の杉山弘の話の後、発行者によるミニコミ発行者交流会を開催しました。

市街地に残る緑地の

これまでとこれから

岸中友子さん

(NPO法人グリーン

サンクチュアリ悠代表)



戦後すぐに自由学

園※で学んだ「働く」「生活する」という経験が、80歳を過ぎた今でも私に影響を与



市民アーカイブ多摩・閲覧室で、語り合うミニコミ発行者・参加者

2015年
1月11日
13:30~
一橋大学

えていると感じています。医師である夫と結婚して、石川県や奥多摩町での勤務医を経て、縁あって1958年に立川市高松町に外科医院を開業しました。24時間対応の救命救急診療所だったため休みもなく、近場にテントを持ち込んで気分転換できる場所を求め、雑木林と畑以外は何もなかった幸町に土地を購入しました。1975年、思いもかけず夫が市長となり、病院との両輪で忙しい時を過ごすことになりました。またこの時期、雑木林の中の幸町には親戚の子どもたちや、姉妹都市からの留学生など多くの若者が一緒に生活していました。市長時代、夫は「心の通う、緑豊かな健康都市・立川」をスローガンに頑張っていました。3期12年の任期を終えた後、7年後に亡くなってしまいました。

65歳を過ぎて病院も甥が継ぎ、私も時間ができるようにになりました。そこで1500平方メートルの土地に、思いつくままに梅やアズナギなどの苗を植え、イカリソウやスズランなどの野草を育て始めました。緑を目的に訪れる鳥たちの糞に混ざって芽が出た山椒、マユミといった植物も増えるなど、自分が手を入れた以上に大きな自然の力によって、あつという間に近隣の雑木林と一体となつていきました。武蔵野の自然が息づく一画がいつの間にか形成されていくことに驚かされる日々でした。四季折々に変わっていく景色に

魅了され、訪れてくる昆虫や鳥たちに癒され、自然の力の偉大さを実感した20年はとても幸せな時間でした。

しかしその間、地平線が広がっていた近隣はあつという間に住宅街に変わっていききました。開発してしまえば二度と元には戻らないことを実感したのです。個人で求めた土地でしたが、これからのことを考えた時、相続税のことなどを考えると個人の所有のまま緑を残しておくのは難しいと思い始めました。そこで、親戚や親しい友人に声をかけて、10人の方に会員になつていただき、2008年にNPO法人を設立しました。6年経過した現在では、賛助会員が100人を超え、多くの



グリーンサンクチュアリ悠の活動風景
樹林開放日にヨガを楽しむ(2014.4.6)
(c) Akiko Hoshino

人にとって大切な場所になりつつあるのが何より嬉しいです。この間、本当に多くの方々に助けられました。そして今年、この緑を守っていききたいと思っている土地の一角に、「市民アーカイブ多摩」が開館したことは嬉しく、とても心強く感じています。私はこの緑地も、そして貴重な資料も一緒に後世に残していきたいと思っています。市民アーカイブ多摩に「資料を守りたい」と善良な思いで集まっている皆さんを見てみると、この場所の大切さはどんどん広がっていくのではないかと思います。これからも活動を一緒によろしく願います。

※クリスマスチャンで思想家の羽仁もと子・吉一夫婦によって1921年開校。毎日の生活を生徒自身が責任を持つて行う自営自治の精神に基づき、稲作、農芸、酪農、給食調理も生徒自身が行う。東京都東久留米市。

市民活動資料を 活かし続ける

杉山弘(ネットワーク・
市民アーカイブ代表)



ようこそおいでくださいました。岸中さんやグリーンサンクチュアリ悠の皆さんが守ってこられた緑あふれるこの地に、忽然と現れた「市民アーカイブ多摩」とは、いったいどのような施設でしょうか?

「アーカイブ」という言葉には、さまざま

な文書やフィルム、情報などを保存・活用し、未来に伝えるという意味があります。ここ市民アーカイブ多摩の書庫には、市民によるいろいろな活動、あるいはさまざまな市民運動、住民運動のなかでつくられた多種多様な文書群、ミニコミ・ニュースレター・通信、パンフレット、文集や作品集、チラシ・ポスターなどが収められています。

多種多様な文書群ですから、そこには人間や社会についてのいろいろな見かたや考えかたが、表現されています。

書架に並べられたファイルを試みに手にとつて、頁を繰ってみてくださ。ちよつと困つた時や、どうにも迷つた時に役立つ知恵やヒントが、きつと見つかるはずです。これは書物と同じですが、それよりもさらに身近なところからの知恵やヒントです。言わば、作り手の体温や息遣いさえ感じられるのが、市民アーカイブ多摩にある文書群の特徴です。(抄)

ミニコミ発行者交流会

後半は市民アーカイブ多摩の見学と当日参加した人がつくっているミニコミ(通信、会報など)を紹介し合いました。『目高舎通信』(武蔵村山)、『文庫』(藤沢)、『チマチヨゴリ友の会ニュース』(府中)、『女のミニコミ』マイマイ族(狛江)、『さんきゅうだより』(立川)、『かねい女性ネットワークニュース』、

2014年4月6日
市民アーカイブ多摩開館記念講演会記録

アーカイブズが社会を変える

講師 松岡資明さん(日本経済新聞社)

『はちとび』(八王子)、『緑の風』(日野)、『ぶくぶくぼれぼれの家』(調布)、『市民活動のひろば』(立川)、と続きました。編集上の苦労や工夫・大事にしていること、編集や印刷する上でのノウハウ交換や読者の反応なども出し合いました。

共通したのは、ミニコミを紹介する発行者の人たちが生き生きと話されたこと、分野や地域は違っても、「これを伝えたい!」「読んでほしい!」という熱い思いが伝わってくることでした。ミニコミの魅力である、そこに関わる人の「生きざま」が見えてくることを実感しました。それぞれが大事にしているものがあり、向き合う課題がある中で、自分はそれにどう関わり、感じているのか。喜怒哀楽を含めて率直に語られ、聞き手の気持ちも揺さぶられたのでした。

参加者の感想から

- ・いろいろな方の話を伺って面白かった。
- ・緑豊かな場所が魅力的だった。
- ・市民アーカイブの必要性を強く感じた。
- ・面白い資料があることを知った。
- ・いろいろな背景や考えを持つ人たちがミニコミを作っていることが分かった。大変濃密な時間で大満足でした。

- ・資料の袋の見出しなどに「子ども」「障害者」などつけると分かりやすくなる。
- ・岸中さんのお話がとても良かった。
- ・歴史が重なった。
- ・資料の活用自体はとも難しいと思う。
- ・歴史の流れを見ると時代の流れもよく分かる。その気づきがとても大切。

◆12月7日(日曜日)10~12時、グリーンサンクチュアリ悠の庭園開放日。「市民アーカイブ多摩」も見学できます!

市民による市民のためのアーカイブズ、「市民アーカイブ多摩」の開館を記念して4月6日、たましんR・SURUホールで講演会が開催されました。講師は日本経済新聞社の松岡資明さん。ジャーナリストの立場で各地のアーカイブズを取材し、その重要性について訴え続けています。アーカイブズを取りまく現状、これからのように活動していけばいいのかなどについて話していただきました。

◆国の公文書

施行令と職員増が課題

アーカイブズは大きく公文書と市民資料の2つに分類できます。

公文書には「1点ものの資料である」「保存期限がある」という2つの特徴があります。一般に公文書は現在用いられている「現用」と保存期限の過ぎた「非現用」に分けられ、「現用資料」も、やがては人間という定年にあたる「非現用資料」となってしまう。

国が所蔵する公文書は2012年度で約1500万ファイルありました。2012年度末には250万ファイルの公文書の保存期限が満了しました。そのうち0.5%だけが国立公



1950年栃木県生まれ。日本経済新聞社記者。2002年以降、アーカイブズの取材に携わる。2007年図書館サポートフォーラム賞受賞。著書に『アーカイブズが社会を変える』『日本の公文書』他。

文書館などに移管されて永久保存となり、残りは廃棄されます。2011年4月に公文書管理法が施行になったのですが、2012年度の移管率は前年度より後退しています。

資料の95%は紙で記録されていますが、消防庁のように70%が電子化されているところもあります。また、移管率が極めて低い検察庁などは、保存期限が満了した6万ファイル以上の公文書のうち、わずか4ファイルしか移管

されませんでした。大半が廃棄です。2009年に成立した公文書管理法には、法律として初めて公文書が「国民共有の知的資源である」と明記されました。条文には行政の仕事は文書に基づいてしなさい、保存期限を決めなさい、管理簿を作って内閣総理大臣に報告しなさいといった事項が定められています。34条には地方自治体に対しての努力規定も明記されています。

施行されて3年ですが、運用を規定する施行令・ガイドラインに欠陥があったことが既に指摘されています。たとえば東日本大震災関連の政府会議で議事録・議事概要が作成されていなかった事例は記憶に新しいところです。

これは文書を積極的に残してこなかった行政機関の体質だけでなく、国立公文書館の職員が諸外国に比べて圧倒的に少ない(日本の国立公文書館の定員は47人。諸外国では数百人以上が普通)ことも一因です。

◆地方の公文書

——地域史資料を活かすために

続いて、地方の公文書管理について見ていきます。地方自治体の公文書管理を充実させるためには「公文書管理条例」という制度と、「公文書館」という建物の2つの方法があります。両方機能しているところもありますが、まだまだ少ないのが現状です。ただ、公文書管理法が成立してからは、各自治体にも変化が出てきています。

成立前に公文書管理条例があつた自治体は3自治体だけでしたが、現在都道府県・市町村を合わせて約15の自治体が条例を制定しています。各地の公文書館の数も増えましたが、普及率はまだ全市町村の2%にすぎません。

地域差もあり、神奈川県では県立のほか4市町村、長野県では同3市町が公文書館を設置しています。一方で岩手県、山形県、愛媛県、高知県などでは県立の公文書館がなく、九州も公文書館未設置の地域がまだ多いのが現実です。

地方自治体では、市史や県史などを作成する際に膨大な地域資料を収集します。こうした地域資料を基に公文書館が設置されている例が多い一方、公文書管理は多くの自治体がこれから取り組もうとしている課題です。また、公文書管理は極めて地味な分野ですから選挙民に訴えかける

テーマになりにくいという難点があります。公文書と聞いただけで自分たちには関係ないと思ってしまう人も多く、アーカイブズ(記録資料)の重要性を理解してもらうのはなかなか大変です。

◆企業の資料

——内部でも使える資料を

日本には民間企業が200万以上あると言います。しかし、資料の収集・保存・管理に熱心に取り組む「企業史料協議会」に加盟しているのは80社前後にすぎません。ただ、今後は企業の社会的責任、株主に対する説明責任を果たす上でも記録としての資料を保存することが重要視されるようになってくると思います。

たとえば資生堂は、掛川市にある企業資料館で化粧品事業を始めて以来の約6万点の化粧品や宣伝ポスターなどの資料を保存しています。清水建設は、明治17年からの工事の実績、設計図面などの資料を残しています。2、3年ごとにOBの自宅に向いて資料を収集するなど、資料保存に大変積極的です。

日本航空は10年ごとに社史を作るなど記録の重要性を認識していました。羽田整備場内のビルに設置したアーカイブズセンターが資料管理の役割を担っていて、当初は段ボール5000箱に及ぶ資料を集めまし

た。資料は基本的に外部非公開ですが、社内でのリクエストにはすぐ応える体制ができています。社内でも活用できるという声が多かったため、経営再建の渦中でもアーカイブズセンターは生き残りました。

ただ、ほとんどの企業の場合、現場が熱心でもトップの理解が少なくというのが現状です。

◆団体の資料

——過去・現在・未来をつなぐ

団体としてはたとえば愛知県の矢作川漁協アーカイブズがあります。矢作川漁協は明治用水の開通にともなって漁獲高が落ち込んだ過去があつたわけですが、彼らは漁協の百年史をまとめたことで、自分たちが権力に搾取されていた歴史を明らかにしたのです。

また、脚本家の市川森一さんが発案した脚本アーカイブズも有名です。初期のTVドラマはフィルムに重ね撮りをしていたため、映像が残っていません。作家個人が残した脚本を集め、現在まで4万点が集まりました。1980年までの2万7千点を国立国会図書館へ、それ以降の脚本は川崎市市民ミュージアムに保管されています。こうした資料により、ドラマの台本を通して歴史書ではわかり得ない過去の日常生活を知ることができ、重要な資料となるはずです。



大阪には西淀川大気汚染裁判で住民側が勝訴するまでのプロセスを記録し、公害のない町づくりを目指す「おおぞら財団」があります。専門家の協力で住民が裁判を勝ち抜くため徹底調査をしました。和解金として受け取った約40億円の一部を基に1996年に設立された「財団法人公害地域再生センター」では、大気汚染防止の取り組みから交通問題、高齢化対策など地域住民のみならず、環境省などの中央省庁を巻き込んで多様な活動を日常的に行っておりま

◆アーカイブズを活用するために

市民運動を進めるとき、国や県と対峙するためには専門家を含めた広範な連携をとることが必要です。その核に「資料」があるかと思うのですが、この点が見過ごされているような気がします。

近年、「資料」が注目された出来事の1つに、1995年の阪神大震災での資料救出が挙げられます。この時、「歴史資料ネットワーク」が立ち上がり、その作業に大学の研究者たちがあたりました。そして集めた資料を使って学習しようという動きも生まれました。たとえば神戸大学が取り組む地域歴史遺産の活用では、丹波市はじめ県内30の地域で月1回開催されている勉強会などがあります。

こうした動きは各地に広まり、10年ほど前には東北大学の教授を中心に「宮城歴史資料保全ネットワーク」が発足しました。地域の旧家調査を行い、古文書をデジタルカメラで撮影し、記録を保存する活動を続けています。所蔵者、地元教育委員会、博物館、大学と4か所にデジタル化した資料を保存してきました。東日本大震災では原本を失った旧家もありましたが、デジタル化してあったためすべての資料がなくなるという最悪の事態は防げました。ただ、今後は東日本と西日本に分散するほか、国外にも保管しておく必要があるのかもしれない。

日本でのアーカイブズの活用は、なかなか難しい現状があります。これは市民1人ひとりの問題でもあります。今後は多方面の方々と連携していく必要があると思います。たとえば、個人的な美術館では、その個性を特徴づけるための資料整備の必要があるはず

です。また、公文書館法制定時の付帯決議には「図書館との連携」とあります。「MLA」とか「MALUI」(ミュージアム、アーカイブズ、ライブラリー、大学、産業の頭文字からつけた名称)と言われる連携の手法も、今後発展していくものと考えられます。

現に一部の図書館では地域資料を積極的に集めている図書館もあり、中には公文書を扱ったり、震災で被災した人たちの避難所での生活などの記録を収集した図書館もあります。

＜質疑応答から＞

——日本の政治の中で公文書管理は今後どのように進められるのでしょうか。

【松岡】新しい公文書館を建築することを目指した議員連盟もできていますが、今後どこまで進められるのかわ問われています。

——「市民アーカイブ多摩」の意義を広く伝え、その重要性を理解してもらうためには、どうしたらよいのでしょうか。

【松岡】記録を保管する意義は、「こういう風に役立つ」と少しずつ具体的に

アピールしないと社会には伝わりません。利用者のために何が使えるのかといったことを常に考える必要はあると思います。そこから言葉も生まれてくるのではないのでしょうか。

——最近、市民グループで大正期から昭和30年頃まで書きつづけられきた井戸掘り職人の日記を読んでいるのですが、職業柄か、地層の動きにはとても敏感で、地震についての記述が眼につきます。さまざまな社会の動きにもこの時はかなり目配りをしていて、朝鮮人暴動騒ぎも、自分の眼で確かめたけれど、そんなことはない、と書いていました。資料を読んでいる、こういう記述に出くわした時のわくわく感のようなものをどうやって人びとに伝えていったらよいのか、考えあぐねています。

——まちが壊れていくことに抗う運動として、たとえば小樽の運動などがありますが、そういう記録はどこかで保管されているのでしょうか。

【松岡】運動はあっても、記録としてはなかなか残ってはいかないです。日ごろから保存は大事だと言っている人、たとえば博物館長みたいな人でも、案外自分の館の展示記録は残していなかったりします。

——小樽の例では5年前、個人で所有していた資料が火災で焼失してしまったと聞いています。

——自分でもよく記録を残してよかったと思うことがあります。後で必ず

市民活動に役立ちます。小平住民投票でも訴訟に向けていろいろと調べているところなんです。今度のセンターでもどんな資料があるかなどの情報を発信してほしいです。多摩の資料が集まるのが重要ですし、利用法がわかれば、利用しやすくなると思います。

【松岡】イギリスには政府によるアーカイブズ登録簿が整備され、分類がきちんとできています。まずきちんとした分類を作る必要があると思います。

——図書館は各館蔵書で連携ができています。市民資料でもできればいいのですが。

【松岡】自分のところで持っていないとも情報は渡せます。連携はとても重要です。

——日本も時が経てばアーカイブへの理解は深まるのでしょうか？

【松岡】最終的には市民の問題かと思っています。「記録する意味」などの教育もされていません。天草市は、公文書をどのように残せば良いのかについて書かれた外国文献を探しましたが、そのような文献はどこを探してもないと分かります。海外では資料を残すことは常識です。

——日本は近代以降、資料を残すことを軽視してきたことを反省し、今後は資料保存・活用についての教育を学校でも取り入れるようにしていく必要があります。

ミニコミ紹介

市民アーカイブ多摩で所蔵する団体や個人が発行する会報・通信（ミニコミ）を発行者の方に紹介していただきます。

Peace あさかわ

浅川地下壕の保存をすすめる会は、八王子市のJR高尾駅近くに残る大規模戦争遺跡「浅川地下壕」（浅川地下工場跡）の保存を求め、平和学習の場として活用する道を探ることを目的とした市民グループです。月1回の運営委員会と年1回の会員総会を開いて地道な活動を続けてきました。毎月1回をめぐに、真っ暗な地下壕の中を案内する活動も、最近は希望に応じきれないほどの盛況です。

当会が発行する会報「Peace あさかわ」は、年間会費2000円を納めてくださっている会員宛に発送しています。が、その他に、八王子市の関係部署や図書館・資料館などにも送っています。

- ・創刊 1997 年
- ・発行部数：170 部
- ・体裁：A4 判・8 頁・カラー
- ・問合せ：042-782-4487（山梨）
- ・市民アーカイブ多摩所蔵号数：17-18,21,26-28,30-101 号



たまじょつうしん

多摩女性学研究会は「全ての社会問題をジェンダーの立場から学習する学習サークルです」と、いつも説明してききましたが、ずっと事務局を担当していたわたしのもうひとつの目的は、「慰安婦」や「憲法」の問題を草の根に伝えて草の根で考えることでした。消長を伴いながら25年間活動しましたが、会報「たまじょつうしん」の創刊は10年を過ぎた頃です。活動を記録するとともに「発信していこう」という意欲に燃えての創刊でした。B5判（後にA4判）4ページ建て、年10回発行で、毎月の例会報告と社会時評コラムを定番記事とし、その時々

発行は偶数月の10日と決めています。が、その時々都合で早まったり遅れたりすることもあります。会が発足した翌月の1997年12月に第1号を発行して以来2014年8月の101号まで、一度も休むことなく発行を続けてきました。A4判8ページで、最近の発行部数は約170部です。

会報ですから会の活動を会員に伝えることが基本ですが、会の活動を記録として残すこと、活動の中から生まれてくる研究成果や発掘

の社会問題や身近な問題、映画や本の紹介など雑多な記事、それにイベント情報を掲載しました。毎年8月は「平和特集」を組み、平和と人権、原発や核の問題を取り上げてきました。

2003300部のミニコミでしたが、愛読してくださる方もだんだん増えてくる中、今年6月で終刊を余儀なくされました。メンバーがそれぞれ病気や家族の介護、自分の本来の活動が多忙になるなどの理由で、例会を維持することが困難になり、会を解散することになったためです。残念なことではありますが、25年間の活動の中で広いネットワークができたことが大きな収穫でした。メンバーそ

した資料などを集約・蓄積することを大事にしてきました。また、写真や図版を大きく組み込み、読みやすく親しみやすい紙面作りにも心がけてきました。カラー写真をいち早くとり入れたのもそのためでした。ひとところに比べて発行部数が減ってきたことを残念に思っていたところですが、こうしたコラム欄を通して、1人でも2人でも会員数が増えたら大変嬉しいことです。

（山梨喜正）

▽巻頭記事Ⅱ「市有地になった金毘羅山 遺跡と自然の現状視察」(10)、「金毘羅山市有地実現報告集会」(100)、「こんびら山の危機口地区の危機」(97)…。カッコ内は号数。



- ・創刊 1999 年
- ・発行部数：200 ～ 300 部
- ・体裁：A4 判・4 頁・モノクロ
- ・市民アーカイブ多摩所蔵号数：57,74-76,87,89-96,98-155 号

れぞれが、教育問題、マイノリティの問題、環境問題、憲法問題等々に取り組んでいたため、それらのグループ間の交流が成立しましたし、多摩女性学研究会として、たとえば脱原発運動に参加することにより、そのネットワークがさらに広がりました。

解散後、やっぱり学習の場が欲しいという希望が強く、新たに「ジェンダーからみた世界史」の読書会が始まりましたが、そこには意欲的な新メンバーが多数参加しています。嬉しいのは平均年齢が下がったことですが、これは「たまじょつうしん」を通じて生まれた「ミニコミュニケーションの産物だ」と思います。学習するだけでなく、「発信する」ことの大切さが、終刊してみてわかりました。

（石川康子）

▽巻頭記事Ⅱ「湊和雄『奇跡の森』をみて」(155)、「沖縄戦と女性たち」(151)、「日米地位協定って何?」(149)、「夫婦別姓は家族崩壊への道?」(147)、「福島に留まる覚悟」(138)、「ベトナム原発予定地を訪ねました」(133)、「ベシクインカムと若者」(113)、「公営保育園を守ろう」(99)…。カッコ内は号数。

記憶と記録の場をめぐる旅②

満蒙開拓平和記念館

―「大切なのは記念館を建て、維持しようとする気持ち」―

◆少女はなぜ死んだのか

ある朝、朝刊の「声」欄を読んでいた。太平洋戦争末期の逃避行の体験談だった。ショックを受けたまま、しばらく動けなかった。

集団で逃避行していて、こどもの声は敵に知られるので、こどもを殺せと言われた避難民が、自分のこどもを殺さなければならなくなったときのことだ。12歳の我が子の首をカミソリで切ったと

き、少女は泣いて母親に言った。「お母さん、わたしいい子にしているから痛いのがやめて」。逃げ回る少女を見かねて、近所の主婦が後ろから少女をつかまえて首を絞めた。母親は「その手をゆるめないうで」と泣いて頼んだという。

読んでいて、しばらく涙がとまらなかった。そういう話はいくつも聞いていたが、これほど悲痛な具体的な体験を知ったのは初めてだった。頭でそういう状況になったと知ること、そうしなければならなかった現実の体験の重さ悲痛さとはまったく違ふのだ。

満州の地で、いったい何が起きていたのか、どうしてそんなことになったのか、それを知るために研究会を開き、資料を集めていて出会ったのが「満蒙開拓平和記念館」だった。

◆最も多く開拓団を送りだした阿智村

記念館は長野県の伊那谷の、そのまはずれの下伊那郡阿智村にある。どうしてこんな遙か離れた土地に、満蒙開拓団の記念館があるのか、そう思うのは東京目線ではかもの考えないせいだ。満蒙記念館専務理事の寺沢秀文さんは言う。「大切なことは、記念館を建て、これを維持しようとする人たちの気持ちであり、気持ちのある人たちがいなくては、いかに人が多く住む都会などに建てたとしても、維持運営していくことは困難である」阿智村は全国でも最も多くの満蒙開拓団を送り出している。だからこ

そ、その「負の遺産」を戦争への反省、平和希求の発信、国際交流への「正の遺産」に置き換える努力が一貫して続けられていく地域であるからこそ、記念館はこの地で建てられなければならない全国どこでも建てられないと。



満蒙開拓平和記念館を訪れた人は、予期した以上に多かった。昨年4月に開館して以来、すでに4万人を超える。満州でいったい何が起きたのか、なぜそのようなことが起きたのか、知りたい人は多いのだ。

◆「体験記」を記録し、残す

中央自動車道の飯田山本インターチェンジから約10分、阿智村役場の近く、しかし目立たない、木造のしつかりした印象の建物が満蒙開拓平和記念館である。約400平方メートル余りの平屋建てのこの建物は、木曾檜の太い柱が何本も建って、がっしりと建物を支えている。地元長野のデザイナーがほとんど無料で設計し、木曾檜は地元のある人びとから提供されたという。もともと記念館は、民間主体で、地元市町村が参加してつくられた。中央が吹き抜き

になって開放的で、どこも閉鎖的にならないようにしているところも、記念館を作った人びとの思いを感じさせる。受付を通ると、時代を知るタイムトンネルを経て、希望の満蒙開拓がやがて絶望の彷徨へ、そして残留孤児が生まれ、それを救った山本慈昭氏へと回廊のように記念館を歩いてたどり着くようになっていく。

しかし、この記念館の大きな特徴は満蒙開拓団の人びとの体験や記憶を記録した「体験記」が膨大にあること。そしてそれは、いまもなお、増え続けている。毎月2回、満蒙開拓団生き残りの「語り部」たちの定期講演会が開かれているからだ。

そこでわたしたちは、集団自決に迫りつめられた人びとの悲劇の実際を知ることになるし、人びとが満州の地を彷徨する何ヶ月も前に、彼らを守るはずの関東軍も満鉄の幹部もその家族も、みんなはるか南の祖国に向かって逃亡していったことを知ることになる。

残された人びとの絶望の時間。いまも忘れられない12歳の少女の死は、彼女の母親でも近所のおばさんでもない、いつも戦場にはいない奴らの手でつくりだされたものだった。

(安東つとむ)

長野県下伊那郡阿智村駒場 711-10
TEL/FAX: 0265-43-5580
<http://www.manmoukinenkan.org/>
入館料: 500円、小中高生 300円
開館時間: 9時30分～16時30分
休館日: 毎週火曜日、第2・4水曜日
管理者: 一般社団法人
満蒙開拓平和記念館

アーカイブ多摩図書館

◆市民団体からの寄付あり

7月に来館してくださった「く」にたち親と子のよい映画をみる会「解散に伴い、当資料館に残金を寄付してくださいました。

◆見学してもいいですか？

この間、ご近所の方が訪ねて来てくださること数回。「看板が気になっていた」「どんな資料が置いてあるの？」などなど。まだまだ、よく分からない不思議な場所ですが、少しずつ認知度をあげていきたい。館内はグリーンサンクチュアリ悠の庭園・保護樹林の景色も広がっています。

◆真夏の資料館

夏休み中は旧盆の13日を休館し、あとは通常通り開館。高い樹木が傘となり、暑さを遮ってくれ、扇風機で過ごせました。一方

で虫たちとの格闘も…。一部の人に被害が集中しました。

◆分類に頭を悩ます

現在、ファイリングされたミニコミは1100タイトル。それとは別に、数千タイトルのファイリングされていないミニコミがあります。これまでタイトルの50音順でしたが、これを皆で分類順に並べ替え準備作業。ミニコミを1つ1つ手にしながら、これは、人権？子ども？平和？…と悩みながら分類します。苦勞の甲斐あって、資料を探しに来てくださった方には、知りたい分野のミニコミの紹介ができました。

◆入館料100円スタート

この間、開館を記念して無料開館してきましたが、9月から会員以外の皆様は100円の入館料をお願いしています。収入と言より、民間の資料館であること、意思表明です。ご協力のほど。

運営委員会

7月13日「ようこそ、市民アーカイブ多摩へ」開催。参加者31人。
7月18日 第4回運営委員会。参加者4人。(検討事項…会員数報告、7月13日の催しの反省等、当番体制、開館日以外の利用、「アーカイブ通信」2号内容、コピーサービス、無料開館終了他)
8月22日 第5回運営委員会。参加者5人。(検討事項…原稿等執筆、開館日以外の施設利用について確認、運営委員会を正会員を含めた拡大運営委員会として開催する件、企画部会から、利用者対応マニュアル、当番研修会他)
9月18日 第6回運営委員会。参加者5人。(検討事項…シンポジウム企画案、「アーカイブ通信」2号、パンフレット作成について、コピーサービス、開館実務他)
◆9月から運営委員会(毎月第3金曜日19時から)を他の正会員の方にも参加していただけるよう「拡大運営委員会」として開催中。

募集中

1. 感想・ご意見

①「市民アーカイブ多摩」に期待すること。②市民活動資料やミニコミ資料の価値について。③本紙「アーカイブ通信」の感想。④「市民アーカイブ多摩」を訪問しての感想を募集します。200字以内で12月末までにお願います。

2. 会員

「市民アーカイブ多摩」を会員として支えてくださるかたを募集中です。当館の運営はボランティアで頑張っています。

3. ボランティア

資料の整理などを定期的(月1回以上)にお手伝いして下さる方を募集しています。細かい作業が嫌いでない方、大歓迎。

会員数(2014・10)

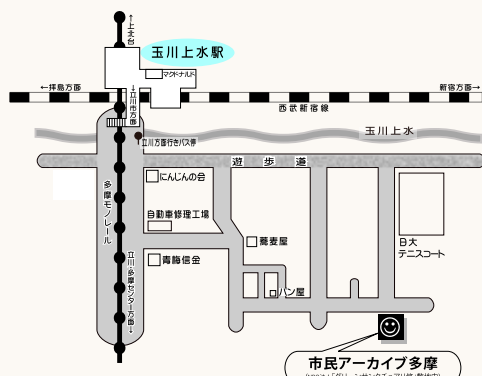
・106人
(正会員50人、賛助会員56人)

カンパありがとう

安達鐘一郎、荒井敏行、飯田和子、飯島利三、江森隆子、くにたち親と子のよい映画をみる会、鈴木美和子、山口美代子、和田安里子、匿名1人

編集後記

今号は広報も兼ねてカラー8頁で作成しました。今後も「市民アーカイブ多摩」の様子や市民活動資料の内実を伝える広報紙にしていきたいと思っています。手さぐりが多く、皆様からのご意見・ご感想をお願いします。(湯・増・江)



- ・開館日：毎週水曜日(12/31 休館)、第2・4土曜日
- ・開館時間：13時～16時
- ・入館料：100円(会員無料)
- ・所在地：東京都立川市幸町5-96-7
(多摩モノレール、西武線「玉川上水駅」徒歩8分)
- ・電話&fax：042-536-5535 (電話は開館中のみ)
- ・見られる資料：2002年以降の市民活動団体や個人が発行しているミニコミ(通信や会報など)1100タイトルほか
- ・ホームページにミニコミのタイトル、発行団体を掲載しています。
<http://homepage3.nifty.com/simin-siryo/>